重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	高齢者が生きがいを持って活躍している		年度	平成28年度
			責任部長	福祉部長
			主担当課長	高年福祉課長
施策名	高齢者が生きがいを持って生活できる環境をつくる	No.9	関係課	―

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
社会に活躍の場を持っている高齢者の割合（%）	↗	33.7	35.8	33.7	35.5	38.7	37.2	42.0
		37.2	40.5	36.2	39.8	37.3		49.8
趣味サークル、ボランティアに参加している高齢者の割合（%）	↗	30.0	33.9	31.0	31.0	36.7	34.9	38.3
		34.9	38.1	36.6	37.2	34.5		45.6
就職を希望する高齢者の就職率（%）	↗	6.5	5.5	4.5	3.5	3.0	3.9	10.5
		3.9	3.8	4.4	4.6	4.1		14.6

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

団塊の世代が高齢者の仲間入りを果たし、一宮市は4人に1人が65歳以上となり超高齢社会を迎えている。平均寿命が延び、定年退職後の人生が長くなり、生きがいを持って活躍できる場所や機会の提供が求められているなかで、高齢者のボランティア活動への参加意識は高く、高齢者が参加するNPO・ボランティア団体等の活動は生きがいづくりに大きな役割を果たしている。学校においては高齢者を招いたり、子供たちが高齢者施設を訪問するなど教育の場での高齢者との交流が進められている。リーマンショック以降低迷していた就職率は、学生の就職率が上昇し、有効求人倍率が高い水準となるなど改善がみられるものの、消費税の引上げが延期されるなど需要の低迷による景気の悪化が見込まれ、依然として景気の先行きへの不安定さがみられる。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	超高齢社会を迎え、定年後の人生をどのように過ごしていくかが課題となっており、生きがいを持って活躍できる場所や機会の提供が求められているなかで、まちづくり指標は全体的に下がっている。しかし、生きがいのとらえ方は多種多様化しており、指標にない趣味や生きがいを持ち、活躍している高齢者も多数おり、就職率についていえば、景気の悪化が見込まれ、先行きへの不安定さがみられる現状において、数値の上昇は困難な状況にある。

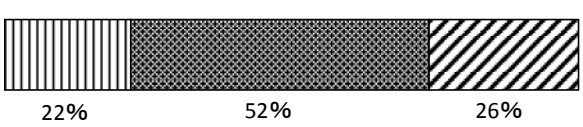
評価がB・Cの場

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）		長期成果（事業群③）
高齢者が生きがいをもって働くことができる	高齢者が自分にあった趣味を持っていたり自分の役割を持っている		
就労の場の確保事業	伝承教育等講師派遣事業	シルバー無料入浴事業	
シルバー人材センター補助事業	高齢者の生きがいと健康づくり推進協議会交付金	としよりの家等運営事業	
	高齢者大学事業	長寿祝事業	
	教養講座・趣味クラブ講習会委託事業	金婚祝事業	
	スポーツ大会委託事業	敬老会委託事業	
	ことぶき作品展・趣味クラブ発表会		
	健康農園運営事業		
	生きがいづくり情報提供事業		
	老人クラブ補助事業		
	娯楽大会等委託事業		
	三世代交流事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は「就労」と「趣味や自分の役割」という切り口で捉えており問題なく、事務事業についても過不足なく十分である。判断指標については、アンケート内容のみの客観的要素であるため、具体的判断は難しいが、今後も高齢者の生きがいづくりの醸成のために事業の継続が必要である。
次年度の改善計画	○シルバー人材センターの登録会員数増加のために、入会案内文書を全戸回覧（年1回）、連区女性の会への案内チラシとパンフレットの配布、啓発ポスターを市施設に掲示するなど、会員増加に向け広報活動を行う。 ○高齢者大学について、座学のみではなく、幅広く見識を深めるよう、講義科目について検討する。 ○金婚式開催について、多くの方に認知いただけるよう周知方法について検討する。

＊＊

市民からみた計画の進捗状況

- A判定（改善傾向）　22 %
- B判定（停滞）　52 %
- C判定（悪化傾向）　26 %